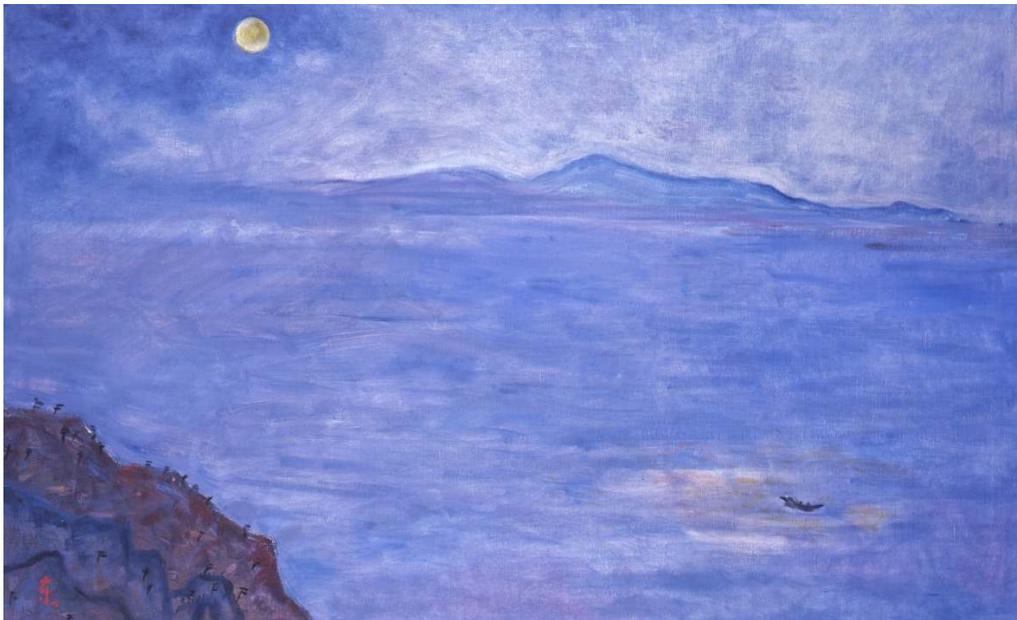


胸中の山水 細川護熙 展



2011年10月9日[日]～2012年1月9日[月・祝]

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

<http://www.musee-tomo.or.jp>

※展覧会のお問い合わせ先:花里・島崎

『胸中の山水 細川護熙』展について

拝啓 時下、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠に有難うございます。
このたびは、次回の展覧会「胸中の山水 細川護熙」のご案内をさせていただきます。

当館は、朝日新聞社との共催により、2011年10月9日（日）から2012年1月9日（月・祝）の会期で、「胸中の山水 細川護熙」展を開催いたします。本展は、細川護熙氏の、美術館における最初の、そして本格的な油絵による展覧会です。

細川護熙氏は、作陶をはじめとする創作活動に加え、2009年から油絵を意欲的に制作しております。「胸中の山水」の作品群は、本展のために制作された新作です。

「胸中の山水」とは、細川氏が若い頃から愛唱してこられた漢詩の世界のことです。人事の儂さを雄大な自然に照らし合わせて情感豊かに詠い上げる漢詩には、時間の悠久なる流れと壮大なスケール感があり、細川氏の作品は、そうした漢詩の魅力を、色彩の世界に見事に表しています。その幻想的な色調のハーモニーは、見る者を画中の物語的な世界へと誘います。主な展示作品は、陶淵明「飲酒」、崔顥「黃鶴樓」、王維「送別」、張繼「楓橋夜泊」、柳宗元「江雪」など、自選の漢詩をイメージした絵画11点、および漢詩の一節を直筆した書の作品です。このほか、茶陶や五輪塔、陶仏、童子像などの代表作も合わせて陳列いたします。つきましては下記の通り、展覧会の概略をご案内申し上げます。本展を多くの皆様にお知らせいただき、周知にご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

敬具

■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 胸中の山水 細川護熙
- 会期 2011年10月9日(日)～2012年1月9日(月・祝)
- 観覧料 一般 1,000円／大学生 800円／小中高生 500円
- 主催 財団法人菊池美術財団、朝日新聞社 ○協賛 京葉ガス株式会社
- 会場 菊池寛実記念 智美術館 (〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル)
- 開館時間 午前11時から午後6時まで (入館は午後5時30分まで)
- 休館日 毎週月曜日 (但し10月10日は祝日のため開館)、10月11日(火)、1月3日(火)
年末年始[12月28日～2012年1月1日]、※1月2日(月)は開館いたします。
- 展示内容 ●「胸中の山水」の絵画11点、および書11点
●楽、唐津、井戸、粉引、志野など茶碗をはじめとする茶陶15点余
●陶仏、童子像、五輪塔など15点余
- 関連行事 会期中の細川氏による展示解説などについては現在日程を調整中です。
学芸員による展示解説、西洋館見学会

■ ■細川氏の「不東庵」の日々と 創作活動についての簡単なご紹介 ■ ■

「胸中の山水」とは

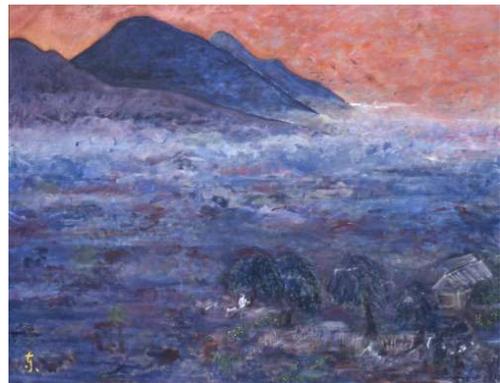
漢詩は、その他の古典文学の愛読書とともに、細川護熙氏の人生を内側から支えた指針であり、ときに滋養のような役割を果たしてきたと想像されます。あるいは、心の奥底を流れ続ける豊かな水脈と言えるのかもしれませんが。このたびの「胸中の山水」の書画作品は、そうしたものへのオマージュと位置づけられます。

細川氏は、しばしば人生の大事について、自分というものを知り、その人生を生き切ることと語られます。「不東庵」（神奈川県湯河原町にある細川護熙氏のご自宅）でのさまざまな創作活動も、人生を真摯に生き切るための選択であり、作品は、その内なる発露と言えるように思います。

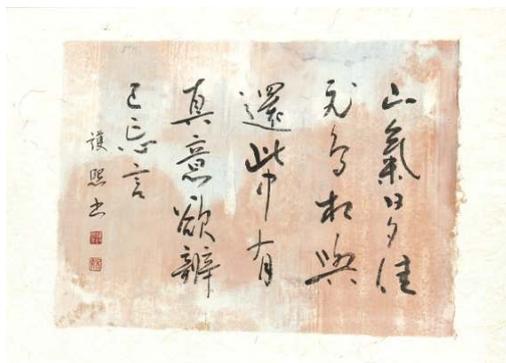
「不東庵」の日々

細川氏が、「不東庵」で実践しておられる「晴耕雨読」の暮らしは、本来無一物である人間の自然に還ろうと、東洋的な人生観に基づいて積極的に選択された日々の在り方です。そこに厭世の意味合いはなく、その目指すところには、おそらく市中にあって、人の間に在りながら、自らの人生を生き切った西行や吉田兼好、良寛らの草庵主義を貫いた先人の姿があり、あるいは、陶淵明の、「結廬在人境／而無車馬喧／問君何能爾／心遠地自偏／采菊東籬下／悠然見南山」（『飲酒』）の如く、隠者の世界観が広がっている

と思われる。こうした超俗の境地は、細川氏が若い頃から祖父・細川護立、父・護貞、あるいは師と慕った大人たちとの出会いを通じて学び、共感を覚えるようになったものです。



「飲酒」 2010年 油彩・カンヴァス



陶淵明「飲酒」2010年

「不東庵」での創作活動のなかで、広く知られているのが、1999年以來の作陶です。樂、唐津、信樂、井戸、粉引など、茶碗を主とする茶陶の制作を中心に、五輪塔、陶仏、童子像など、本来は石で造られる造形を信樂の土で手がけ、それらの路傍に佇むような風情は、ユニークな独自の世界をつくり出しています。

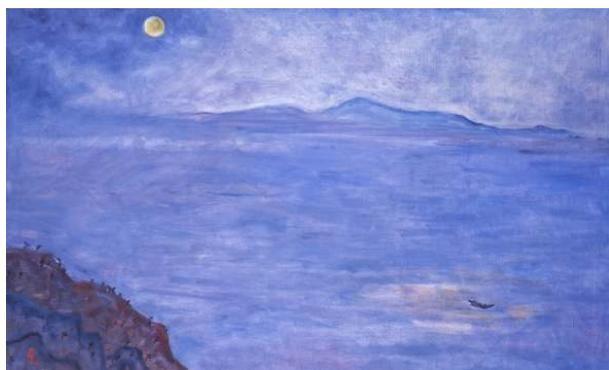
また、書、漆、水墨画など、領域を限定しないのも細川氏の創作活動の特徴です。こうした作品は、2001年の初個展以来各地で披露され、また、海外においても、07年のニューヨークでの個展、それに続く10年のパリでの個展と、高い評価を得ています。2009年に始められた油絵も、今後、大いに注目されることになると考えられます。

■作家略歴 細川 護熙 (ほそかわ・もりひろ)

- 1938年 東京都生まれ。細川家 18代当主
 1963年 上智大学法学部 卒業
 1992年 日本新党結成、代表に就任
 1993年 第79代内閣総理大臣に就任
 1998年 60歳を機に衆議院議員を辞職
 政界引退後は神奈川県湯河原の自邸「不東庵」にて作陶をはじめ。
 2001年 初個展(壺中居／東京日本橋) 以後毎年開催
 個展(古美術 柳／京都) 以後毎年開催
 2003年 個展(ギャラリー ヨシイ／パリ・フランス)
 2007年 個展(柳ギャラリー／ニューヨーク・アメリカ)
 2010年 「不東庵 創作の軌跡 細川護熙展」(三越エトワール／パリ・フランス)
 『市井の山居』細川護熙展」(メゾンエルメス／東京銀座)
 その他、各地で個展を開催



■貸出し画像 ※掲載にあたっては、貸出し申込書リストのキャプションを表記のとおり入れてください。



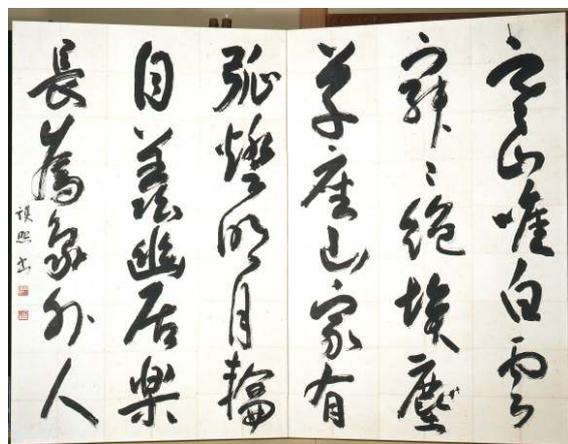
1. 赤壁舟遊 2010年 油彩・カンヴァス



2. 信楽 童子像
2010年



3. 信楽 陶仏 2010年



4. 書「寒山詩」 2011年 二曲一隻屏風

寒山唯白雲	孤燈明月輪
寂寂絕埃塵	白羨幽居樂
草座山家有	長爲象外人



5. 赤茶盃 2007年

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

掲載に関するお問い合わせ先 菊池寛実記念 智美術館（担当：島崎、花里）

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX: 03-5733-5132

● 社 本

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

●

新聞 雑誌	媒体名:	
	発行日:	発売日:
TV ラジオ	媒体名:	
	放送日:	放送時間:
ネット	URL:	

●画像 リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年、撮影者名を必ず入れてください。サイズの単位はcm。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	① 赤壁舟遊 2010年 油彩・カンヴァス 90.0×145.0 <撮影:藤森 武>
<input type="checkbox"/>	② 信楽 童子像 2010年 h36.7 18.8×24.1 <撮影:吉川 忠久>
<input type="checkbox"/>	③ 信楽 陶仏 2010年 h41.8 35.6×19.5 <撮影:吉川 忠久>
<input type="checkbox"/>	④ 書「寒山詩」 2011年 二曲一隻屏風 178.5×233.0 <撮影:藤森 武>
<input type="checkbox"/>	⑤ 赤茶盤 2007年頃 h10.0 φ10.0 <撮影:藤森 武>
<input type="checkbox"/>	⑥ 細川護熙 近影 <撮影:吉川 忠久>

●読者プレゼント用チケット希望: 5組 10名様 10組 20名様